

開山無相大師650年遠諱団参を終えて

大阪府八尾市郷原 理子^{りね}

関西には前日まで大型台風が直撃し、少々心配しておりましたが、当日のお昼頃には日差しが強くなり、良いお天気になってくれました。

私たち兄妹は現地まで合流し、最初に龍泉庵、そして玉鳳院から開山堂へと通して頂きました。中でも開山堂は、妙心寺でも神聖な場所です。祀られる開山像へ毎朝の洗面と三度の食事のお供えを山内の和尚様方が交代でされているそうです。



参拝してくださった
郷原健一郎さんと理子

お話を伺う中で、「言う、その本を務めよ」と言うお言葉が深く印象に残りました。そして、両親やご先祖様を大切にすることは、命の繋がりに感謝する事だと改めて気付かされました。実際、毎日の生活の中では甘えが出てしまい、親に優しく接することがなかなか出来ずにおりますが、幼い頃に私がして貰ったように少しでも一緒に笑顔の時間を持つよう努めたと思います。

お昼は、大方丈で「阿じろ」の精進膳を頂きました。寒い季節になるので、根菜を中心に身体を温めるものを使うなどの説明を伺う中、たくさんのお坊様方がお世話をして下さいました。料理は、ひとつひとつが丁寧で作られてあり、食感・香り・味を楽しみま

した。関西に住んでい

る為、お正月は毎年家族で妙心寺に参拝していた事もあり、父や母がきつと喜んだだろうと思いがら味わいました。

その後、小方丈から微妙堂へ抜け拝観させて頂き、法要まで少し時間があつたので、2、3の塔頭を拝観させて頂きながら時間を過ごしました。普段、拝観を許されていない所を色々ご案内くださり、貴重な経験をさせて頂きました。

いよいよ、法要が始まるので法堂へ向かいました。入ってすぐ『八方睨みの龍』を初めて目の当

たりにし、その迫力に思わず声が出ました。まるで天から龍が降りてくるようにも観え、前の人に続いて席まで移動する中、転ばないように気を付けながら眺めました。観る方向で印象が変わるそうです。今回は、法要中でじっくりと観る事が出来なかつたので残念でしたが、またゆっくりと観させて頂きたいと思

います。今回、このような催しへの参加は初めてでしたが、最初に優しく説明して下さったので安心して臨むことが出来ました。導いて下さる和尚様に続き私達もお経を読みました。大勢の低い声が重なり、なんと言葉が重なり、生んで来た事

関西に住んでいると、なかなか檀家の方との接点がありません。この日、皆様方とお会い出来た事

が大変ありがたい機会となりました。和尚様不在の中、おひとりでも色々とご案内くださった奥様には、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。また、これからもこのご縁を大切に続けて行きたいと思っております。



小野庫太・公子ご夫妻



小野文永・アキ子ご夫妻

〈家族みんなで読みましょう〉

妙心寺開山無相大師650年遠諱にお参りして

直川仁田原内水 戸高 忠

10月7日早朝、折から接近中の台風18号の影響による強い雨の中、善男善女と思われる私たち正定寺班31名は直川を出発しました。

大分自動車道を北上して福岡空港より伊丹空港に到着、はとバスにて奈良市に向かい春日公園内で昼食後、華嚴宗総本山東大寺を参拝、木造建築物としては現在世界最大と言いますがそれでも今の建物は創建当時の3分の2の規模だそうです。機械もコンピュータ



船中でくつろぐ
戸高 忠・松栄ご夫婦

でもない往時の人たちの智恵と技術にただただ驚嘆するばかりです。

次に、訪れた史跡は立宗総本山唐招提寺です。このお寺には個人的に関心がありました。20年程前に井上靖の「天平の甍」を興味深く読んだことを思い出し鑑真和尚の偉大さを再認識しました。そして、終日雨の1日目は、檀原神宮に近い檀原ロイヤルホテルに泊まりました。

次の朝、ホテルのテレビをついたら台風18号は東海地方に上陸したとの報道、恐らく奈良地方も夕べから今朝にかけて激しい雨が吹き荒れたのでしようが、旅の疲れで熟睡して全然気がつきませんでした。そんな中、添乗員さん達は朝早くから方々に連絡した結果、予定通り高

野山に参拝することになりましたが、途中の河川は濁流、道路は木の枝等が散乱しており特に紀ノ川上流の濁流は凄くガイドさんもこんな大水を見るのは初めてだと驚いていました。バスは予定通り高野山に着きましたが先ほど通った道は直後不通になり、帰りは迂回道路を通らなければならぬ

と言っていました。そんな中、永年の夢でした弘法大師開祖の真言蜜教高野山にお参りすることができました。雨も午後はあがり、杉の枝葉が散乱する参道を奥の院まで参拝することができ、3時過ぎにバスは一路京都に向けて出発しました。

京都では、ライトアップされた二条城の真向かい京都国際ホテルに泊まりました。

天気もほぼ回復し旅も3日目を迎え、他のバスは二条城を見学しましたが、私たちは相国寺に向かいました。臨濟宗大本山相国寺で通常の観光コースに入ってなく最初はバスの乗り入れも断られました

が、正定寺の奥様等の御尽力で特別に拝観が許可され、京都を何百回も案内したという大ベテランの自称上沼恵美子ガイドさんも初めて拝観できたと感激していました。

さて、バスは相国寺を後にし妙心寺へ到着、昼食をはさみ広大な山内の龍泉庵、微妙殿等を拝観、散策しました。

そして、午後2時緊張と期待が交差するなか法堂での650年遠諱に参加致しましたが大変厳粛な雰囲気包まれ、身の引き締まる貴重な有難い時間を過ごすことができました。最初は世界遺産を3箇所も見物できるぞと観光気分に参加しまし

たが、今後は遠諱法要の感動を忘れずにこの経験を少しでも生かせる様に努力したいと思えました。

夫婦で参加させて頂き4日間大変お世話になりました。本当に有難うございました。感謝合掌



戸高 忠・松栄ご夫婦
小野浩伸さん



柳井久美子さん・柳井登志子さん
御手洗ヨネ子さん・小田木布子さん

〈家族みんなで読みましょう〉

◆ 妙心寺開山650年遠諱スナップ ◆



鴨尾利夫・エイ子ご夫婦



岡田喜敏・千壽子ご夫婦



川野久美子さん・安藤リヨ子さん
久保田キヨエさん・柳井香代子さん

大畑利春さん・御手洗晴視さん



龍泉菴前で



山田桂子さん・小野シマ子さん
五十川キミエさん



安藤健辞・リヨ子ご夫婦



甲斐龍太さん
久仁子さんと
お姉さんの高治喜代子さん



御手洗晴視・ヨネ子ご夫婦

〈家族みんなで読みましょう〉

妙心寺650年遠諱法要にて

直川下直見江河内 小野 永生（正定寺檀徒総代）

開山さまが今から650年前に84才で亡くなられ、今年が丁度50年に一度の本山法要が営まれ今回のご縁で参拝させて頂きました。日程は10月7日から泊4日でしたが台風17号・18号の上陸予報で出発が直前まで危ぶまれる状況の中、私達は台風より一足早く目的地に到着が出来、参加者一同ホッとしておりました。正定寺より42名の参加予定でしたが直前になり小原住職の体調不良により同行出来なかった事が誠に残念ではありましたが、代りに奥様が全員のお世話役で頑張る姿に目頭の熱くなるのを覚えました。

到着初日は奈良東大寺の大仏様に約20年ぶりに再会しました。改めて建物の大きさや大仏様の大きさに、ただただ「大き

いなあー大きいなあー」の連発でした。建物を支える直径2mを超えるような大きな柱を見上げながら、つい「どこからもってきたんやろうか?」「杉じゃろうか?檜じゃろうか?」と毎回同じような疑問が出るくらい素晴らしいものばかりでした。

二日目は高野山への参拝。ここは四国八十八ヶ所巡礼の最後が高野山と言われる所です。戦国の武将から、時の総理大臣、そして経済界や文化人等各界の著名な方々の墓が所狭しと並んでいます。生きてる時は皆んな名を馳せた御人ばかりでしょうが、土の中に眠ってる状態は「無」でしか感じられません。やはり人間は「生」ある間がいかに大切な事で、又大切にしている日々の生活を過ごすよう

にしたいと考えます。それと他にもう1つ目をみはるのが樹齢2000年を超えたような素晴らしい杉並木で何度みてもほれほれします。

三日目が今回の本山法要です。午後からの法要の前に朝一番での訪問先は正定寺後継者（拓朗君）の修行寺の相国寺（シヨウコクジ）でした。あの有名な金閣寺・銀閣寺をかかえる大変大きな寺で伺った時に若い修行僧が朝の庭清掃に励んでおりましたが、その中に拓朗君は居ませんでした。修行期間中は面会も出来ないし相国寺の修行は大変厳しいとのこと

です。いよいよ本山です。東京ドーム7つ分の広い敷地の中に数多くの寺院があるのに驚きです。4人の弟子にそれぞれ寺を持

たせその1つに龍泉庵という大きな寺がありこれが正定寺の直属の寺であるとの事で入念に見学し、他の所もさまざまなものを見させて頂き、お昼には大広間での精進料理を物めずらしくいただきました。

2時からの650年遠諱法要がローソクだけのうす暗い中でおごそかに約1時間行われる中、つい午前中の歩き疲れが心地よい読経になったりもしましたが無事今回の目的を成す事が出来ました。

一行はそのまま関西フエリー乗場にバスにて向かい夕食は船上にてとり翌朝大分港に到着。全く予期していない事がありました。入院術後の身体をおして小原住職が和可子ちゃん（娘）の介添で立って迎えてくれたではないですか。またまた目頭が熱くなつたものです。今回初めての妙心寺本山の参拝で41名の方が

無事に目的を果たせ、日頃接する事もなかなか機会のない方々と旅行を通じふれあいを築けた事に感謝申しあげます。



柳井道則さん
大畑利春さん



河野豊美さん
川下佐和代さん



武田 守さん
安藤廣美さん

〈家族みんなで読みましょう〉

第2回正定寺杯ゴルフコンペ

平成21年9月27日（日）正定寺花園会青壮年部の主催で 直川カントリー倶楽部を12時00分スタートで第2回正定寺杯ゴルフコンペが開催しました。

開会式では小田木聖孝青壮年部長の挨拶と村西栄二部員の競技説明があり、25名の参加者はコースへと出発しました。

ラウンド終了後はレストラン「コリーヌ」で表彰式及び懇親会を行いました。

今回の優勝は赤木（市屋敷）の 阿部元治さん

ベストグロス賞は小野永生総代（江河内）

最高齢者賞は鴨尾利夫さん（神の原）

遠来者賞は大分市から参加の小野衛さん（神内出身）

ブービー賞は飛田美枝子さん（杭の内）

敢闘賞は柳井道則総代顧問（中道）

今回は久留須ゴルフ倶楽部と仁田原ゴルフ倶楽部の皆さんも参加して頂き賑やかな開催となりました。



第2回優勝者の阿部元治さん



開会式



小田木聖孝花園会青壮年部長 (右端) の挨拶



懇親会

大会結果

ネット	氏名	グロス
58.8	阿部 元治	70
60.0	仲野 裕二	76
60.6	小野 永生	61
61.0	小野 晴基	65
62.0	甲斐 正充	66
62.4	風戸 賢司	64
62.4	戸伏 賢二	70
62.6	三浦日出男	75
62.8	古元 親夫	74
62.8	曾根 田実	80
63.0	飛田 清馬	73
63.0	御手洗 哲	79
63.2	柳井 孝博	66
63.2	大下 英俊	72
63.2	鳴海 三吉	72
63.4	村西 栄二	77
63.4	近藤 健一	77
64.0	鴨尾 利夫	80
64.2	御手洗 堅	85
64.4	大司 八郎	90
65.2	志賀健一郎	74
65.8	小野 衛	83
67.0	大司八重蔵	95
67.4	飛田美枝子	93
67.8	柳井 道則	85



久留須ゴルフ倶楽部も参加頂きました

ニア	③	⑥	⑬	⑰
ピン	村西	三浦	大下	風戸
ドラ	⑦	⑱		
コン	三浦	古元		

〈家族みんなで読みましょう〉

第15回九州東教区花園地方研修大会・花園女性部総会

平成21年11月4日(水) 別府亀の井ホテルで総裁代理の養賢寺僧堂師家・片岡省念老大師を講師として花園会本部長の林学道師より「どう活かす、わたしのいのち」の研修テーマの基調講演や各部女性部からの体験発表など終日研修を行いました。正定寺から女性部役員4名が参加しました。



女性部会計の柳井久美子さん・副部長の川野久美子さん
部長の甲斐久仁子さん・副部長の安藤リヨ子さん

第3回 黄龍窟杯ゴルフ大会

九州東教区第2部主催での平成21年11月10日(火)に行われる予定の「第3回 黄龍窟杯ゴルフ大会」

が雨の為中止になりまして、参加者は「寺院巡拝」を行



柳井順一郎さん・小野 浩伸さん
三浦 伸一さん・山田 佐一さん
安藤 慶喜さん・五十川キミエさん
小田木布子さん・甲斐久仁子さん
山田マキエさん

ゴルフ大会

大会会場の佐伯市米水津に参りました。潮月寺さんのお昼ご飯を書院で頂きました。



潮月寺書院で昼食

「黄龍窟杯ゴルフ大会」は昨年亡くなりました養賢寺新命老大師が主催され今年度は老大師を偲ぶ 大会として計画されたものです。



花園会本部長の林 学道師



総裁代理の養賢寺僧堂師家片岡省念老大師

《正定寺花園会役員名簿》

- 花園会会長(檀徒総代) 甲斐 照光
- 花園会役員(檀徒総代) 小野 永生
- 花園会役員(檀徒総代) 御手洗晴規
- 花園会役員(檀徒総代) 安藤 廣美
- 花園会会計・事務局 村西 栄二
- 花園会女性部部長(第二部女性部副部長) 甲斐久仁子
- 花園会女性部副部長 安藤リヨ子
- 花園会女性部副部長 川野久美子
- 花園会女性部副部長 柳井久美子
- 花園会青壮年部長(第二部青壮年部副部長) 小田木聖孝

《正定寺花園会地区世話人名簿》

- | | | | |
|----------|-------|----------|-------|
| 内水地区 | 戸高 浅生 | 栲杭地区 | 御手洗 哲 |
| 岸の上地区 | 櫻井 孝 | 上の地区 | 植田 純市 |
| 細川内地区 | 小野 浩伸 | 袖の原地区 | 染矢 博正 |
| 黒岩地区 | 小野 力 | 大鶴地区 | 三浦 伸一 |
| 羽木蟻地区 | 大竹 良一 | 神の原地区 | 尾形 利勝 |
| 神栗地区 | 平井 均和 | 市屋敷地区 | 柳井 百人 |
| 堂師地区 | 羽明 忠義 | 野の内地区 | 川野 貴重 |
| 立長地区 | 立箱 和人 | 中道地区 | 安藤 慶喜 |
| 吹原地区 | 山内 一平 | 久留・新中地区 | 大司 八郎 |
| 竹園地区 | 竹中 裕子 | 関慶・中津留地区 | 簗戸 精一 |
| 江河内・遠越地区 | 甲斐 龍太 | 尾浦地区 | 山本 春男 |
| 旧佐伯地区 | 仲宮 哲男 | | |
-
- | | |
|--------------|-------|
| 花園会会計監査委員 | 御手洗 哲 |
| 花園会会計監査委員 | 竹中 裕子 |
| 花園会女性部会計監査委員 | 小野 宣子 |
| 花園会女性部会計監査委員 | 柳井 政子 |

檀信徒さまへのお知らせ

「法類寺院檀信徒総代・花園会役員合同会議」のご報告

平成21年11月22日午後6時より「法類寺院・檀信徒総代・花園会役員合同会議」が正定寺書院で行われました。

現在、病氣療養中の住職が来年春先まで治療に専念しますのでその間法務が滞りなく、又檀信徒の皆さまにご心配をお掛けしないようにと臨時の合同会議を行い、今後の対応を検討致しました。会議に先立ち「法類寺院・総代・各役員など」の紹介を行いました。法類寺院は正定寺の全ての事柄を各立場に鑑みて把握しなければならぬので、「法要の対応」・「晋山の時期」・「組織説明」や「土地・建物・

什物」などの整理を目的とした条件下での話し合いとなりました。

徒弟である南陽禅士は来春には副住職申請を行います。既に法類寺院・総代より推薦され全ての書類は整っています。

現在、京都相国寺専門道場より暫暇頂き正定寺へ戻って来ていますが春以降は修行に専念するために新たに修行道場へ掛搭することになります。

住職治療中は、総代役員をはじめ、檀家の皆様と共に菩提寺である正定寺をしっかり護持していきたいと考えています。

正定寺役員一同

《法類寺院の説明》

檀信徒には聞き慣れない「法類寺院」という言葉は一般で云う「家親類」の事です。「法類寺院」には「寺附法類と身附法類」があります。

(1) 「寺附法類」とは江戸時代よりの縁故によって定められ、正定寺が何事かあれば寺院の護持興隆に寄与する寺院です。

(2) 「身附法類」とは明治時代より師弟関係の法縁で定められ、正定寺が何事かあれば住職・寺族を擁護し寺院の安泰に寄与する寺院です。

※法系・縁故など詳しくは正定寺ホームページでもご覧いただけます

【議事内容】

(1) 住職治療中の対応
葬儀導師は法類寺院住職及び宇目寺院住職にお願い致します。法要に付いては徒弟及び近

隣寺院の住職にお願い致します。

(2) 晋山式の時期と今後の新命和尚

第22世豊嶽和尚の晋山式が昭和29年（1954）に行われ現住職が昭和57年（1982）に挙行しています。約30年に一度晋山式が行われます。以前から新総代・役員には平成24年（2012）頃を目標に第24世住職の晋山式を考えていましたので来年度よりその検討に入りたいと考えています。

（晋山式とは「山にすすむ」と云う意味で次の住職を迎える儀式の事です。）

(3) 寺院の組織説明と収支などの説明

法類寺院と総代が同席した上で「総代・花園会・女性部・青壮年部」の組織状態や会議日程と「花園会収支

（護持金）・常住法人収支（布施等）」の説明などが行なわれました。

(4) 境外地の対応

既に皆さまへ周知しています和合寺の対応は、引き続き跡地の整理を検討したいと考えています。又、四方境外仏像の一つである願王庵の対応を今後は以下の通りで管理を行いたいと考えます。

宝盈山願王庵

（通称：黒沢地藏）

【地区の方々が覚えてから】

昭和21年から昭和30年まで森本真道和尚が千巖和尚と豊嶽和尚の副住職として願王庵を護持（まもる）していました。

真道和尚が願王庵を退山する昭和30年後藤主誠和尚（真言宗僧侶）が細川内地区の承諾を得て住菴しました。

昭和41年から豊嶽和尚（正定寺先住職）の副住職として後藤正観和尚が正式に住菴しています。現在に至るまで周辺の整理や庫裡の新築など功績も顕著で師の徳とするところ です。

正観和尚は平成元年（正定寺の住職交代）に役職を退職して先副住職（所属は正定寺）となっていました。龍護寺住職に請われて副住職を退職・晋山した森本真道和尚の様にこの度、正定寺から江國寺（佐伯市柏江）への入寺（転籍）申請が整いました。

所属寺院が正定寺から江國寺へと代わった事で、願王庵にこのまま住することが許されるのか本人（後藤正観和尚）も危惧していますが、これまで通りの布教活動を行い本山懲戒規定などに抵触せず法灯護持が専一に行われれば正定寺・総代・地区役員も住する事への障害は無いと説明さ

れました。

住する条件として本寺開山の「利翁和尚香資（開山香資）」と「ご開帳収支決算書提出」の二点が須く滞らない事が条件でその旨も詳しく説明されました。

年中行事のご開帳は今まで通り地区導師は正定寺から出向く旨や地区世話人・総代には今後も願王庵の伝統行事を護持する協力も重ねてお願い致しました。

(5) 兼務住職時の対応
住職に何事かある場合は法類寺院の中から「兼務住職」が選定されます。兼務住職が新任職晋山までに護持と法務がすみやかに進めるように総代・役員も協力して頂くようお願いを致しました。

《出席及び案内者》

【法類寺院】

寺附法類総代
洞明寺（弥生）

身附法類総代

崇圓寺（宇目）
寺附法類
瑞祥寺（本匠）

【部内】

二部支所長
長昌寺（宇目）

【法縁】

後藤正観和尚
檀徒総代

甲斐 照光（下直見）
小野 永生（下直見）
御手洗晴視（仁田原）
安藤 廣美（赤木）

【花園会役員】

会計・事務局

村西 栄二（赤木）
細川内世話人
小野 浩伸（仁田原）

【顧問】

柳井 道則（赤木）
柳井 孝義（仁田原）

【正定寺】

小原 寿山（住職）
小原 南陽（徒弟）

※甲斐照光総代・柳井道則顧問は風邪の為欠席

除夜の鐘

腐食していた木製の階段を新しく致しました。この階段は平成11年春に山門を改修した時に設置されましたが、10年目にして取り替えとなりました。除夜の鐘は12月31日午後11時30分からどなたでも撞く事が出来ます。



大般若会のご案内

来る一月二十日（水）午前十一時より大般若会を執り行います。高齢者やお体がご不自由な皆さまの為に、当日は仁田原公民館前にタクシーが配備されています。

正定寺への登り降りにご利用ください。また、横断歩道の無い場所での往来は危険ですので、国道横断時には必ず横断歩道を利用してください。

山門施餓鬼会



施餓鬼の始まりを告げる大鐘



水塔婆の戒名を読み上げる梅南寺和尚さま



和尚さま方の声明

平成21年9月22日（火）午前11時より恒例の「秋彼岸山門大施餓鬼会」が行われました。
120名の参拝者が五色に荘厳された本堂で施餓鬼棚へ「水向け供養」を致しました。
供養壺は635壺で近隣の和尚さま10名により独特の声明で一壺一壺が水塔婆供養されて本堂に戒名が響きわたりました。



お接待



御幣など施餓鬼の準備をする女性部の皆さん

〈家族みんなで読みましょう〉

平成21年 秋彼岸

参拝者の皆さん



法要の後には17年続く女性部ボランティア
(老人介護施設にタオルを寄贈)



位牌堂での

〈家族みんなで読みましょう〉

花園会女性部忘年会 (懇親会)



12月11日（金）福寿の里で恒例の「花園会女性部忘年会」が30名を越える参加者で行われました。和尚さんのお説教の後、本山参りや一年の女性部活動を振り返りながら会食しました。来年元旦から九州国立博物館で開催される「妙心寺展」の紹介や会員相互の懇親会では踊りやカラオケも登場して和やかに時を過ごしました。

* - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - * - - *

初詣は我が家の仏壇から

今年も年の瀬を迎えました。仕事納めの前に片付けがおこなければと仕事に励む人や、家庭では掃除や正月を迎える準備で忙しくさされていることでしょうか。除夜の鐘が聞こえてくれば、ああ新しい年を迎えることができるなあと思つづく思われます。

さて、新年を迎えれば多くの皆さんが神社に初詣をされます。クリスマス、感謝祭といろいろな行事に参加された人たちも、正月は晴れ着を着て神社に詣でるのが昔からの習慣になつていきます。

ところで、神社に詣るまえに忘れないでほしいのが、我が家のお仏壇に手を合わせることです。

今日ここにこうして、新しい年を家族そろって迎えることができたのも、それはただの偶然ではなく、はるか昔から、途絶えることなく生命の火を灯しつづけて来てくれた、何代にもわたるご先祖様のおかげであり、そう思えば、こうして

人として生まれ、生きていくことを（そこには色々つらいこと、苦しいことがあるにせよ）、深く感謝すべきでしょう。また現在の生活は、実に多くの人々の労働と智慧のおかげだということにも思い至る必要があると思ひます。

仏壇の前で手を合わせるのには、何かをお願いするのではなく、そうした感謝の気持ち、合掌という形で表すのです。

また、今では深い山のかなにお墓があるというお家は少なくまりました。雪もなく足下が良ければ、どうぞお墓にもお参りください。盆や彼岸だけではなく、家族揃って無事に新年を迎えることができた喜びを、ぜひ墓前で報告してください。そうすれば、新春らしい晴れやかな気持ちになるものです。

お子さんたちに、小さいうちから感謝し手を合わせる習慣をつけておくと、きつと心の優しい人に育つと思ひます。

〈家族みんなで読みましょう〉